



ふるさとの水と土をいつまでも大切に！  
立梅用水通水190周年

# 第18回 大師の里メダカまつり 開催

～水土里ネット立梅用水が後援～



ブースで楽しむ来場者



会場中央に飾られた横断幕

平成25年9月22日(日)多気町丹生の「大師の里メダカ池」において、農地・水・環境保全向上活動の一環として、ふるさとの水と土をいつまでも大切に！立梅用水通水190周年をテーマに第18回大師の里メダカまつりが開催されました。

当日は、秋晴れのもと汗ばむ陽気であったが、町内外から約1,000人の親子連れ、友達同士らが訪れ、秋風のなか、自然とのふれあいを楽しんでいた。

遊休農地を活用して作った「メダカ池」には現在、メダカやタガメ、ヤゴなど豊富な生き物が生息している。

「メダカ池」では近隣地域で活躍するアマチュアバンドによる「田んぼのコンサート」が開かれ、池の中の特設ステージで日頃の成果を披露していた。散策に訪れた人たちは時折心地よい風が吹き抜ける木陰にたたずんだり、ベンチに腰をおろして熱心に聞き入っていた。中には、歌に合わせて手拍子を打ったり、口ずさんだりして楽しんでいる人もいた。

また、メダカ池周辺ではゆめ工房の米粉を使ったお菓子やまめやの豆料理などが販売され、竹細工作り、似顔絵、水彩画、メダカの俳句などのブースが設けられた。

今年は、小さい子どもがゆっくり遊べる田んぼの生き物ぬりえ、おりがみコーナーも設けられ、たくさんの親子がぬりえやおりがみでメダカやカエル作りに取り組んで楽しい時間を過ごしていた。

「メダカの観察会」が始まる午後2時前には、にぎわいを増し、約300人が観察会に参加し、「おおもの賞争奪戦」では小さな子どもから大人までがタモやバケツを持って、遊歩道や田んぼのあぜ道から身を乗り出し水面に目を凝らし、必死に水中の生き物を探していた。メダカ、ヤゴ、タガメの三種類の大きさを競うイベントでは、子どもたちが大物を捕らえるたびに本部に持ってきて大きさを測ってもらい、自分が捕った生

き物が大きいと大喜びで結果を待っていた。午後4時から結果発表が行われ、メダカ3.7cm、ヤゴ5cm、タガメ6.6cmという大物を捕獲した3人の子どもが表彰をし、このイベントを終了した。

主催者は、このイベントを通じ水や土の大切さに大きな関心が寄せられ、今後もこの水と土と里を大切に守り続けたいと抱負を語っていた。



メダカの観察会



本部で捕獲した生き物の大きさを確認してもらっている子どもたち